

外務大臣 岡田克也様

ハイチ国への支援のお願い

2010年5月

特定非営利活動法人日本リザルツ

事務局長 白須紀子

2000年の国連ミレニアムサミットで最貧国ハイチの大統領が各国の首脳に問いかけた言葉を思い出します。「地球にまだ飢えた者がいるとき、火星に人類が一步をのけたからといって、何の意味があるか」という言葉です。

日本リザルツは、2010年4月19日から28日まで須藤シスターに同行して現地調査を実施しました。ハイチは未曾有の人的危機であり、日本の外務省・JICA・NGOが協働する「人間の安全保障」が国際的に試される場です。日本の基本方針は、①**選択と集中**をおこない、少ない費用で日本の旗がみえる効果的な支援、②**日本の得意分野**に特化、③過去の支援案件をフォロー、④**BHN(保健、教育)**に特化、というのが妥当です。これは日本のNGOの強い分野でもあり、外務省の資金(NGO連携無償)などをつかってNGOの活動の場を提供することにもなり、オールジャパンの支援体制となります。日本リザルツとしては、須藤シスターを始め、製薬メーカー・医療機器メーカー・建設会社・世界保健機関・ハイチ国際緊急援助隊の方々などハイチに関連する方々と意見交換し、以下の日本の支援策を提案します。なお、各ドナーがいろいろな分野の計画を作成中なので世界保健機関・世界銀行・米州開発銀行・世界基金・主要二国間ドナーなどと必要に応じて調整することが必要です。

1. 感染症対策:

- (ア) ハイチの被災地で地震災害後、急速に結核感染が拡大しています。日本の援助によって建設された施設があり、須藤昭子シスターが長年関わってきました**シグノーのサナトリウム**の再興をお願いします。さらにハイチには無い呼吸器疾患を治療できる臨床施設と医師・医療従事者を養成できる施設の建設もお願いします。仮称: 昭子須藤シスター記念センター
- (イ) 現地で深刻化している多剤耐性結核やエイズ・結核二重感染を含む結核対策の **JICA 技術協力プロジェクト**[5年の2期予定]を継続的に実施してください。現行の国際研修制度を拡大・充実させるとともに、このような災害に柔軟に対応できるような緊急集中研修制度を設けてください。
- (ウ) 日本の医療機器は国際的な評価も高いですが、**医療機器の数年の維持管理・訓練費用**もふくめたパッケージとして支援を行っていただき、援助効果を高めてください。ただし、現地で使いこなせて修理可能なものでなければなりません。
- (エ) ハイチでの中長期的感染症対策として**世界基金**や米国大統領緊急エイズ計画

(PEPFAR)の資金支援をさらにうけることが大切です。日本は、不足している世界基金への日本の拠出増を約束してください。

## 2. 農業技術学校支援:

須藤シスターが近年かかわっている持続的貧困対策・所得向上策として**農業技術学校**(高等レベルはあります)の建設を支援してください。ハイチ国の自立を促すためには、都市でのマイクロレジットなどによる生計向上をはかりながら、農村部では持続可能な農業の技術を継続的に若年層中心に教える施設が必要です。また、森林荒廃対策として植林振興訓練も同時に行ってください。

## 3. 耐震対策支援:

日本の得意分野であり先方からの要請も強い耐震技術の普及を行ってください。具体的には、現地での**耐震建築研修**、日本での専門家研修が考えられます。少ない費用で大きな中長期的効果が期待できます。

## 4. 上下水道計画支援:

私たちが、現地滞在中もシグノーなどで深刻な水不足が発生しました。安全な水の供給不足と下水問題(事実上、下水システムがないです)が都市部を中心に広がっていて、これも感染症を含む疾病の蔓延につながっています。今回の地震を契機に中小都市をモデルとし**上下水道の計画・建設・運営指導**などの支援を行ってください。

## 5. NGO プロジェクト形成支援:

今回は、日本リザルツから2名が個人負担で須藤シスターに同行し現地の実情をみてきました。日本の国際保健 NGO などがハイチのような中長期的に復興が必要な国に調査出張し、自らのプロジェクト形成および外務省・JICA などに優良なプロジェクトを提案できるようにすることが必要です。そのために現行の外務省の NGO 連携無償制度の枠などを活用し、NGO のこのような積極的な取り組みを日本国として支援してください。